

グローバル補助金奨学生 古林安希子

コロンビア大学国際公共政策大学院

人権・人道政策専攻 紛争解決コース

茅ヶ崎中央ロータリークラブの皆さん、いかがお過ごしでしょうか。海外にいたのでオリエンテーション等に参加することはできませんでしたが、グローバル補助金候補者から、無事正式にグローバル補助金奨学生となることができました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

アメリカの大学は9月開始なので、新しい年度が始まって約一か月が経ちました。今年は留学2年目なので去年に比べて余裕をもって大学院生活を送り、学外活動にも参加することができるかと期待していたのですが、残念ながら授業・課題・学内の仕事に追われる日々を過ごしています。その大きな理由の一つが今学期ティーチングアシスタントという、授業のお手伝いをするお仕事を頂いたためです。統計学の授業のアシスタントを担当しています。週一回私が教えるセッションがあるので、そのための準備や採点、また学生からの問い合わせの対応などに時間がとられ、自分の勉強時間を確保するのに四苦八苦しています。この体験についてはまた次回詳しくご報告させていただきたいと思います。今回は少し時間が経ってしまいましたが、留学中の夏休みをどう過ごしたかご報告させていただきます。

アメリカの大学院の夏休みは5月中旬～9月頭までと丸三か月以上でとても長く、多くの学生は長い休みを利用して、インターンシップ（実際の職場で一時的に就業し、卒業後のキャリアのために経験を積む）を行います。日本でも最近は実施している団体・企業も増えてきていると聞いていますが、アメリカではとても一般的で、私の留学している大学院では在学中に専攻に関するインターンシップ（以下インターン）を一定時間以上行うことが卒業要件になっており、単位にもカウントされます。私は6月から8月中旬まで2ヶ月半、ケニアのモンバサという都市のNGO（非営利団体）でインターンを行いました。アフリカに行くのは初めてだったのですが、コロンビア大学の人権研究所(Institute for the Study of Human Rights)のプログラムを通して、この団体に派遣されました。



インターン先のNGOのメンバー



調査開始前の情報収集のためのインタビュー

インターン先の NGO は Initiatives for Equality and Non Discrimination (<http://www.inend.org/>, 略称 INEND) という団体で、性的・ジェンダーマイノリティ (ゲイ、レズビアン、バイセクシャル、トランスジェンダーなど) というケニア社会において排他的に扱われがちな人々の人権保護を訴え、実態調査、差別改善のためのコミュニティでの啓発活動、政策提言などを行っています。ケニアでは同性愛に対する差別が根強いだけでなく、刑罰の対象として扱われるため、性的・ジェンダーマイノリティの支援をしているということを公言することは危険です。また、根強い差別意識からゲイやレズビアンだと思われると暴力を振るわれる、公的機関やホテル・レストランでサービスを受けられない、警察に逮捕される、ということもあります。そのため、滞在中はどのような団体で仕事をしているか初めて会った人には話さないなど、気を使いました。

インターン中の主な仕事は、①地域における性的・ジェンダーマイノリティに対する意識調査、②広報活動、③組織運営サポートでした。根強い差別意識を変えていくためには、まず一般の人々が性的・ジェンダーマイノリティのことをどう見ているのか、どうして抵抗意識を持っているのか、を知る必要があります。そのため、コミュニティの人たちにインタビューを行い、また 100 人を超える参加者にアンケートを記入してもらい、色々な情報を集め、データを分析し、レポートを作成しました。このレポートは団体が今後コミュニティでの啓発活動を企画するための根拠となるとともに、団体の広報活動のツールとしても重要な意味を持っています。さらにコロンビア大学院に進学前に IT 企業に勤めていた経験を活かし、団体のホームページ・Facebook・Twitter の更新や、コミュニケーション戦略の作成などを行いました。INEND は新しい団体でまだきちんと形が整っていない部分も多かったため、民間企業での経験を活かし、組織運営のサポートもしました。3 年間の予算作成や活動計画なども参画してすぐに私が作成するなど、短期間で組織の様々な根幹業務に関わることができ、とても充実したインターンでした。

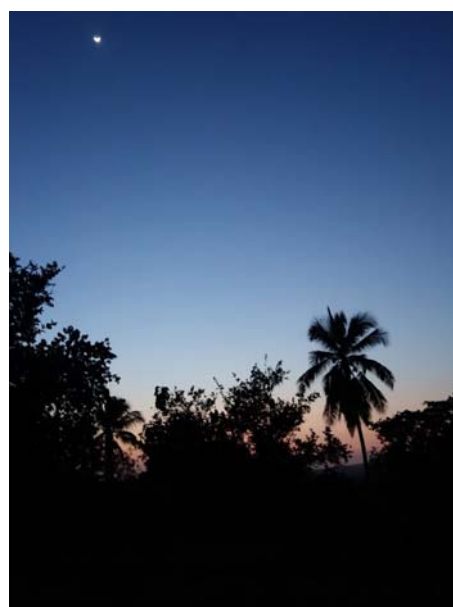


グループインタビューの様子 (プライバシー保護のため一部加工)

初めてのケニア滞在は驚くことも多く、特に蚊の多さには悩まされました。マラリア流行地域でもあるので、生まれて初めて蚊帳を利用し、マラリア予防薬を服用しました。シャワーは水シャワーで、停電は週に多いと 3-4 回、停電するとパソコンが使えなくなるので、仕事は終わりでオフィスを閉めて帰宅します。予測のつかないことも多かったですが、モンバサはインド洋に面し、アラブ人との貿易で栄えた歴史のある都市です。現在もケニアだけでなく内陸国の輸出入の要となる港があり、ケニア第 2 の都市で、滞在も楽しむことができました。

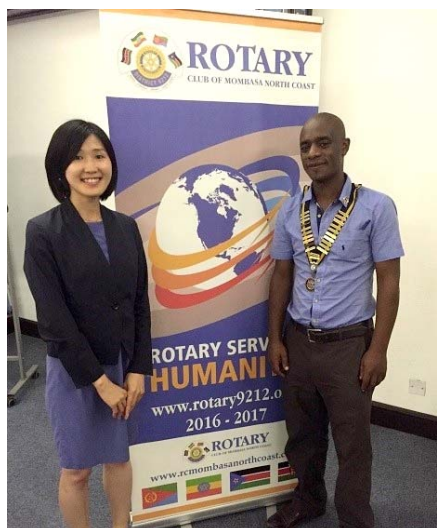


モンバサのビーチ。ラクダが散歩中



エキゾチックな夕暮れ

初めて滞在したケニア・モンバサでの2か月半を楽しむことができたのは、滞在中に訪問させていただいた地元ロータリアンの皆さんのおかげです。9212地区のRotary Club of Mombasa North CoastとRotary Club of Mtwapaという二つのクラブを訪問させていただきました。7月というちょうど新年度の時期だったので、会長の就任式にお邪魔させていただきました。前年度の会長・運営メンバーの活動紹介、新会長・新運営チームの紹介、今後1年間の活動計画、ゲストスピーカーによる談話、会食、最後はダンスパーティー、というとても盛りだくさんの就任式でした。就任式には近辺のロータリークラブからもロータリアンが参加し、クラブの新会長を紹介するとともに、クラブ間で交流する目的もあるそうです。これらの会合で知り合ったロータリアンの皆さんが右も左も分からない私を気にかけてくださり、隣町に連れて行って下さったり、食事に誘っていただいたり、ご自宅に招待していただいたり、友達がいないと寂しいだろうということでアメリカから来ている同年代の人を紹介して下さったりと、本当にお世話になりました。初めて訪れる場所でもロータリアンの方々のおかげで、貴重な経験がたくさんできました。



Rotary Club of Mombasa North Coast の新会長就任パーティーにて